

社会主義の任務は、すべての生産手段を全人民の所有に移すこと

人民委員会議の会議での発言 1918年3月4日

—

私は、われわれがこの席で聞いた意向と企てが労農政府の任務からまったく逸脱したものであって、社会主義とは縁もゆかりもないという同志トルトフスキーの意見にまったく同意する。社会主義の任務は、すべての生産手段を全人民の所有に移すことであって、けっして船舶が船舶労働者の手に移り、銀行が銀行員の手に移ることはない。もし、こんなたわけたことが真にうけられているのなら、国有化を撤廃すべきである。なぜなら、それはおよそ埒もないことだからである。われわれが社会主義の任務であり、目的であるとみなしているのは、土地や企業をソヴェト共和国の所有に変えることである。農民は、土地をりっぱに耕作するという条件で、それを受け取っているのである。もし、水運従業員が船舶を手に入れるならば、それは、船舶を経済的に取り扱うという条件つきである。すなわち、彼らは、すくなくとも収入と支出を確認するために、予算を提出し、船舶をていねいに取り扱わなければならない。もし、彼らにそれができなければ、われわれは彼らを取り除くまでである。また、もし彼らが三週間論争するならば、私は、管理部から全員を取り除くよう提案したい。なぜなら、これは、組織能力の全然ないことであり、ソヴェト共和国の緊要な任務をまったく理解しないことだからである。これは、混乱であり、組織攪乱であり、いや、それよりもっと悪く、サボタージュの一步手前である。水運労働組合にたいしてある種の組織だった攻撃が企てられ、苦情がもちだされている。ところが、ヴォルガ河には修理していない船が停泊している。これはいったいどうしたことか？ これは、気違い病院なのか？ 私は、彼らの自覚をりっぱに信じている、——もし、われわれが将来、こんな混沌状態のなかで生活するなら、われわれはもっと苦しい災厄に見舞われるだろうという彼らの自覚を。われわれが規律をもち、すべての所有物を人民に組織的に移譲し、富のすべての源をソヴェト共和国の手に移譲し、それを厳重に規律正しく管理すること、これが基本条件である。だから、水運従業員は管理の私的な主人となるであろうと、言う人があるならば、われわれがそれに同意しないことは明らかである。管理はソヴェト権力がやらなければならない。ところが諸君はすべての組織の一元化の途上で、なにか論争を組織している……⁽¹⁾ もし、不満があるのなら、彼らは命令の撤回を求めればよいだろう。しかし、彼らは、船舶労働者が140%の増給を要求するために、船舶がだれのものであるかをまず検討するよう、あらためて提案している。

(1) 速記録の一部は判読できない。

事項訳注 P696

* 水運従業員組合中央委員会代表の、水運の管理を労働組合の手に集中するようという提案をさす。

1918年3月4日の人民委員会議の会議で、水運管理協議会の設置問題が審議された。人民委員会議の決定によって、水運の管理は最高国民経済会議の管轄に移された。国民経済会議には水上交通部がつくられ、その協議会は最高国民経済会議、人民委員会議、水運従業員組合、地方国民経済会議の各代表から成るはずであった。

人民委員会議は、水運従業員のアナルコーサンディカリズム的要求を拒否した。レーニンの提案によ

って、人民委員会議は、2月27日の人民委員会議決定第三項にもとづいて、協議会を即時設置すること、協議会内の労組代表の数を一時ふやすこと、ヴォルガとマリア運河網の船舶修理所の労働者の給料を支払うために紙幣をすぐ送る措置をとることを決定した。人民委員会議の決定の主要条項は、レーニンが書いた（本巻、50ページを参照）。

第42巻『人民委員会議の会議での発言』P46～47

1918年3月4日

社会主義社会は単一の大きな協同組合

協同組合機構は、資本家の私的なイニシアティブではなく勤労者自身の大衆的参加に期待した物資供給機構である。カウツキーが、背教者になるずっとまえに、社会主義社会は単一の大きな協同組合であると言ったのは、正しかった。

第28巻『モスクワ党活動家会議』P234 1918年11月27日